

おはようございます。自由民主党の藤井大輔です。2019 年に県議会議員となってから、3 年 4 カ月経りましたが、そのうち 2 年半はコロナ禍でありました。その間地域の会合や、夏祭りや運動会等の行事もほとんどなく、地域の方々との交流の機会がめっきり減ってしまったことは、1 年生議員として本当に残念でなりません。私事ですが、8 月から久しぶりに、地元での県政報告会を再開し、のべ 140 人の方に参加いただきました。今日はその一部の方に傍聴に来ていただいております。ありがとうございます。

県政報告会では、できるだけ意見交換や対話に時間を割くようにしました。そこでお聞きした地域の方の声は、耳の痛いことも含め、実に切実で胸に迫るものでした。今回の一般質問では、そういった地域の方の声をベースに、組み立てております。

以下通告に従い、分割方式にて質問を行います。

まず、第一のテーマ「県民の不安に寄り添う、県知事のリーダーシップについて」、2 問お尋ねします。

京セラ創業者である稲盛和夫さんが、去る 8 月 24 日にご逝去されました。90 歳でいらっしゃいました。変革型リーダーとして、卓越した経営手腕を発揮しただけでなく、自ら塾長となった「盛和塾」では、世界中の経営者、約 1 万 5000 名にその経営哲学を説いたとされています。新田知事におかれましても「盛和塾富山」のチャーターメンバーであったとお聞きしております。私は前職リクルート時代に、間接的ではありますが稲盛さんのお話を聞くことができました。稲盛さんは、「現在の混迷を脱し、より良い社会を築いていくには、素晴らしい「人格」を備えたリーダーを選ぶことが大切です」と述べられています。また、「真のリーダーとは、ひたむきに仕事に打ち込み、そのなかで人格を高め続けているような人物ではないか。そのような人間であれば、リーダーとして権力を委ねられた後も、墮落することも傲慢になることもなく、集団のために自らを犠牲にして懸命に働き続けてくれるはず」ともおっしゃっており、私自身も大変感銘を受けました。

新田知事は、稲盛和夫さんのリーダーシップ論から、どのようなことを学ばれ、また県知事としての職務にどのように活かされているのでしょうか。ご所見をお伺いいたします。

(知事の回答メモ)

- ・鹿児島県出身、いち民間人が富山県議会でもとりあげるのは異例ではないか。京セラ、新しい分野を切り開いた。NTT に挑戦した第二電電。墮ちた巨星 JAL を立ち直らせた
- ・郷土賞も功績。人を育てた「盛和塾」が最大の功績ではないか
- ・盛和塾富山の立ち上げ、ゼロから尽力した。最初の 1～2 回に稲盛さん来県、ご自宅で全

国大会実施されたときも同席。心から心酔している。

・「金を残すは三流、仕事を残すは二流、人を残すは一流」、まさに稲盛哲学に通じる。研修費用や人材の育成に県予算の投資も行っている。すべてスタートは人。ウェルビーイングを起点に人を育てて活かす、ということを県政で実践していく。

次に、県民の不安との向き合いについてお尋ねします。コロナ禍が3年目に突入しただけでなく、昨今の豪雨豪雪などの異常気象や、国内外での政情不安、物価高騰による生活不安など、県民の不安・ストレスはかなり高い状態が続いていると感じます。

アメリカの心理学者スロビック博士は、最も対処が難しいのは、専門家が科学的データから「リスクは低い」と捉えているのに、一般の人たちが「なんとなく恐ろしい」「わからないから不安」になるケースだと言います。また新潮新書の「ストレス脳」によると私たち人間の脳は、狩猟をしていた頃の1万年前からほとんど変わっていません。周囲は危険に満ちており、少しでも油断すると野獣に襲われるので、「直観的」に危険を察知できる慎重で臆病なものが生き延びた。私たちはその末裔なのだと言います。一方、「科学的」な理論や技術はここ100年で急速に進歩しました。理性によって私たちの社会はここまで発展してきたのです。「現代に生きる私たちに、石器時代の心が宿っている」という表現をご存知でしょうか。つまり、私たちの心に芽生える不安は、理性的な情報で解消されるものではない、感情的な部分に訴えることでしか癒されない。そう、私は理解しています。

県知事という職務は、県庁職員のリーダーであることは当然ながら、全県民のリーダーとしての立場も求められています。私の県政報告会の場で、実際に聞かれた地域の声には「報道を通じて知事の言葉を知るが、私たち県民の安心させてくれる言葉が聞かれない」「ウェルビーイングや富山アラート、コンプライアンスといった曖昧なカタカナ語でごまかされている気がする」といったものがありました。実際、私もカタカナ語が多いと叱られました。私は、新田知事の心の中にある、県民の不安に寄り添う想いが、どうも県民に届いていないのではないかと懸念しております。県民は知事からの「安心させてくれる言葉」を待っているのです。県民のリーダーとして、県民の不安払しょくのため、わかりやすく・真摯な説明が求められていると考えますが、新田知事のご所見を伺い、第一のテーマの質問を終えます。

(知事の回答メモ)

・定例記者会見、週1回続けてきている。SNS、雑誌、テレビの取材にも応じてきた。お役所言葉をつかわずにやってきた。成長戦略もビジョンセッションなど現場色を大切にしてきたところ。

・カタカナ語が多いとのご指摘だが、カタカナ語の方がわかりやすいこともある。ただご指摘は真摯に受け止めたい

・リーダーに過度に依存する危険性を忘れてはいけないのではないかと。多様な価値観が必要

な時代には、市町村長や職員など様々なルートで、さまざまなリーダーがふつふつと立ち上がっていくことが、レジリエンスある社会につながると信じている。